不快昆虫の新顔，テンウスイロヨトウ

高橋 正和

国立予防衛生研究所衛生昆虫部
(〒141 東京都品川区上大崎 2 丁目10-35)

(受領：1975年2月10日)

Athetis dissimilis Hampson, a new nuisance?

Masakazu TAKAHASHI

Department of Medical Entomology, The
National Institute of Health, Shinagawa-
ku, Tokyo 141, Japan

1973年9月中旬から10月中旬にかけて、神奈川県相模原市の住宅に多数のガの幼虫が出現した。この幼虫は、原色日本蛾類幼虫図鑑（保育社刊）でしらべてみると、テンウスイロヨトウ *Athetis dissimilis* Hampson と思われた。

およそ、40頭の成熟幼虫が、住宅の外側下見板をはい上がったたり、玄関、窓枠、下見板のすき間に侵入するだけでなく、窓枠のすき間から屋内に侵入して、壁面に静止し、家人に著しい不快感を与えた。

幼虫の活動は日中よりむしろ、夜間から朝方にかけて盛んで、玄関のガラス引戸1枚当たり、平均20頭、多いときで30頭が毎朝附着していた。この間、2日ほど雨の日があり、雨の降った翌朝には附着していなかった。

この奇現象はほぼ3週間続き、この間の総数はおおむね、400頭をこえたと思われる。

発生源と思われるものは、約2.5メートルの未舗装の道路をはさんだ、5畝のサツマイモ畑らしく、そこには、おびただしい同種の幼虫が見られ、道路上でも多数踏みつぶされていた。しかし、この畑は薬剤散布など行なわれずに放置されていて、10月末にはイモ堀りのため、表面の植物体を除去したために幼虫の姿は見られなくなった。なお、翌1974年には同じような現象はおこらなかった。

農業害虫の家屋内侵入による不快昆虫の1例として記録する次第である。

Athetis 属の別種エゾウスイロヨトウ (*Athetis subargentea* (Caradja)) の幼虫が人家内に侵入した例は、既に1966年6月に東京都中野区鷺宮でみられ、朝比奈（蛾類通信, No. 61, p. 15, 1970）によって記録されている。

新著紹介

Genetic Control of Insect Pest

G. Davidson

Academic Press, London & New York, 1974.
158pp

この本でいう Genetic Control は、主として不妊化した、あるいは不和合の虫を放して、不稔な交尾をさせ、在来種の虫集団を減少・駆除する方法をいう。そのためには、当然放射性物質や化学不妊剤の使用や交雑による不妊雄の作り方が問題になる。本書がこの点について詳細に事例を紹介しているのはもとよりだが、さらに基本にさか上り、不妊雄の大量飼育・生産方法や、実用的には何匹の不妊雄を放さねばならないか、といった問題にまで言及する。対象も衛生害虫に限らず、農業害虫、畜産害虫に広げて、400点近いこれまでの報告を引用している。

実用的には、まだ検討を必要とする将来の害虫対策の方法であるが、方法論の一つ一つについて、また害虫ごとに、その実用性の大小、長所、弱点についてまで、現時点で考察しうる範囲で論議している。ハンディな本であるが、内容は豊富である。著者 G. Davidson は、ロンドンの Ross Institute で、長年にわたり、本問題を手がけてきた第一人者である。この著者のもとで数年来研究一路の秋山順氏からクリスマス・プレゼントが小生のもとに届いた。インクの香も新しい本書であった。本代4.00ポンドに代え難い感謝である。

(帝京大・栗原 毅)